



7-0063

0169

Handwritten notes in the top right corner, possibly a date or reference number.

卿

大輔

大守

少輔

少佐

大守

少輔

少佐

大守

少輔

少佐

自今郭内外諸邸宅中一由ゆて一
切普鏡を多傳抄事一

大政官

Handwritten text, possibly a name or title.

外務省

卿
大輔

大正
十五年
五月
十七日
吉

大原
少原
吉

出
事
節
翔
冬
賀
久
示
系
之
輩
ハ
以
之
區
ニ
可
面

庚子五月八日

大政官

清官者高使

外務省



卿
左
右
中
左
中
右

今般外務省中文書司を被置修事

丙午年

大政官

法官名を付検定

外務省

卿

大輔

大輔
大輔
大輔

大輔
大輔
大輔

親皇華族之面
府屬縣學校
于修業之儀願之可
被多行

庚午五月

大政官

外務省

御

大丞
権左衛門

輔

少丞
大膳官

大丞
権左衛門
大膳官
少丞

今般親王華族府藩縣遊學

所差許に付てハ左ノ條件可相

以得事

遊學之儀先方打合之上

年數相限、辨官可申出

外務省

事

年限中無撥事故ヨリ

轉學或ハ歸省等ノ節ハ

其旨前以可願出奉

但父母及ヒ其身出テ病氣等

差掛リ等ハ在後日可申

出奉

遊學中其學校之規則
守り教官之指示に從ふ可い勿論
専ら情懐恪勤を以て旨とす可
事

遊學中 貴職より待遇

に差等無きこと

但親玉に列せしむ

年 限相満退學歸

外務省

章之節に必考試可有事

庚午五月九日

太政官

卿

大輔

大五
少五
木津書
大五
少五
木津書

大五
少五
木津書
大五
少五
木津書

彈例別紙に通被

仰出候事

庚午五月十日

大政官

外務省

研

考

考
考
考

考
考
考

考
考
考
考
考

彈例

一奏任以上并非職五位以上、非違ハ
奏彈ス

但判任以下ト雖モ事ハ大ニシテ連累
多キ者ハ同ク之ヲ奏彈ス

外務省

一親王及ヒ參議以上、非違ハ予弼アルニ
非レハ彈スルヲ得ス

一奏彈ハ予若ク弼三職ト若ク奏スルニ
予弼右サレハ大忠奏スルニ事ハ三職
ニ係ル者ハ直ニ之ヲ奏ス

一府藩縣判任以下非違アル重
夫ハ臺ニ召シ輕キハ其廳ニ移シテ叙サ
レム 庶人ト雖モ事ハ重大ナルハ召ス

●非違ノ左証アル者ハ
其處ヨリ省セサル者ハ刑部ニ移シ
ニ推考セシムヘシ

●罪收明著或ハ事ノ急率ニ
出ル者專ニ刑部ニ告テ推考セ
シムヘシ

●刑部赤囚ヲ決ス事重負就
テ監スルニ若寛枉灼然ナルハ

外務省

●停ニ 奏聞 推覆セシムヘシ

●事若シ犯アラハ忠以上共ニ議判
ニテ奏彈 ス事重負ノ非違

●其上官ヨリ之ヲ彈 ス
以上

寫

外

大正

大捕

後

大正

後

少

後

少

自之強有者所難於外國人備之
若者強之強者中急先以之
時、是止備之向之改之是也
條之方用有之

外務省

但、百姓町人、至、此一時期、高橋
備之、本、文、以、條、之、向、
、方、之、向、也、

庚午年十月九日 大政友

其、三、部、名、を、留、年、待、以、送、り、

所
齋

檄
檄
檄

檄
檄
檄

大少
大少
大少
大少
大少
大少

以布元

自今諸君及有府縣署經
友負以同危

也此諸君高藩友事
一

外務省
諸君若能
一

多利高
多
一

多
多
一

多
多
一

多
多
一

大御

之朝

於

御用之儀

第十二月

朝

但

朝

外務省

官

五月

右

御
右輔

方永
本務

柳
柳

柳
柳

東洋の海軍院用院長
省長官兼海軍省

海軍省
海軍省

海軍省

海軍省

海軍省

外務省

海軍省

海軍省

海軍省

卿

大輔

大丞

少丞

從七位

大丞

自今彈正平以下職負諸官
省等之器越候節以直便更
之場所相誥可申以間兼而此
段以心得可有之也

庚午育音

辨官

外務省

諸官省亮

外卯

大辨

大五

大五
大辨

大五

大五

大五

諸官有承承知事奉職之者負此官者
彼有下轉任之又在彼府之免職之者此
知事撰舉者之為之者方能之者
知之應一在檢可之之之之之之之之
又ハ免職之者撰舉之者一帝之者

外務省

在職勤仕等之場所ハ免職之者細且
年月日ハ答之承承之人物を詳悉
辨出之而備簿之而都合之免職之者
精數吟味可致之事

庚午六月

大政官

右之通社仰出、旨申下也

庚午六月四日

辨官

外
帳

大
神

大
正
格
正
長
七
位

大
正
格
正
長
七
位

来十四日北川祭有十二日酉刻より十

五日朝・参り、御神事奉

但重軽服者系僧尼之装束

朝可降奉

庚午六月

大
政
官

外
務
省

有通は此帳より百中の一也

庚午
六月
四日

釋
官

官省廻

大郷

元國事ニ係リ順送ヲ誤リ犯罪ニ至

リ府藩縣ニ於テ各申付有之レ者并

未タ所分ヲ經サル分トモ去巳年九月被

仰出レ御趣意ニ基キ罪ニ輕重ニ應ジ其

管轄府藩縣ニ於テ寬典ニ處置ニ成ル

仰出レ事

但禁錮預ケホ

朝廷ヨリ以處分相成ル者思死罪

外務省

雜省見込ニ者ニハ仰出ル

庚午六月

太政官

若シ直社

仰出ノ方申入也

庚午六月

辨官

神祇官

民部省

大藏省

兵部省

刑部省

宮内省

外務省

待詔院

外務省

集議院

大學

彈正臺

皇太后宮職

開拓使

印

延喜式に勘定可なり也

外卿

大輔

大正

大正

大正

大正

大正

大正

諸官省出張所標替お成る者明後十字
等十字職負中一名出頭有り也

庚午
六月十日

辨官

神祇官

民部省

外務省

大藏省

兵部省

刑部省

外務省

集議院

大学

彈正臺

追々早々少廻覧有り也

二〇日午三時 船大島 五洲 三ノ口 友止 五五

大

大五

大五

多補

三ノ口 友止 五五

諸邸宅中ニ於テ揚子江迄ハ
一切不取手筆

庚午三月

大政官

貴道江 仰出旨中入也

外務省

庚午三月

辨官

郷

郷

郷

郷

郷

来十七日、外橋、雉子橋、清々田、安半、飛土、川、門、と、一、甲、未、定、條、法、入、通、川、

但、雉子橋を除く、は、四、川、門、に、至、る、事、は、

此、限、内、に、禁、止、す、

庚子二月

太政官

外務省 仰、出、方、中、の、や

外務省

庚子二月

一柳官

外務省

民部省

大蔵省

兵部省

刑部省

内務省

外務省

待詔院

兼議院

大 学

陛下臺

皇后宮職

平松史

此等事は道邊に於て行はる

外務省

皇方御事

○

○

大正
推考
推考
推考

大正
推考

六月廿九日 皇方御事

一 昨辰年 春被仰出以楠中将社

御造營之儀 今度共庫縣に御事

任三月 宮内省官華一族以下士族年

庶人之至り止 有志者 金穀或

材木等寄附し 及多而

御汝治之 色に差許り 官同縣

うお納以 負教書を 書り 七月 中

西京に 内神 祇事 たり 事

庚午 六月

太政官

右に 色に

御事 たり 事

厚許百十八日 辨 友

神祇友 民部友

大藏友 兵部友

刑部友 宮内友

少納言友 侍從友

兼儀友 大 子

源左友 皇太子友

司振使

香少中

近知子之山田 院 三三三 友

以

町中

三

三浦

少中

長

新由子之節 万々揚以內供

連規則

親王

帶刀二人 少者二人

三

外務省

諸官省長官

帶刀二人 少者二人

長四位 高家

必收 卒族

帶刀一人 少者一人

奏任官以下

帶刀少者一人 少者一人

右之通 打違

唐子月
大政官

諸官有嘉記

外務省

外務省

御

大輔

大丞

大進

長官

大宰子到本侍從上

諸官省并院使亦御委任章程可

了如後之思而若大臣殿の直達本録の

事于今遷延本殿居の事了了可也

若大臣殿被中少少此方乃遷延也

庚午
六月廿日

辨官

外務省

卯
大編

大正
九年
十月
十日

大正
九年
十月
十日

大正
九年
十月
十日

美國都府北勅に於て其來年
四月より毎年三月十日付迄に
有し右に右國商人に於て其此物不
し精巧を以て此に未だ其為す
之に其日付に府藩商人に於て其此物
等可引文に於て其自力を以て其此物
大急場を以て其後者を以て其此物
越後之に其府藩商人に於て其此物

外務省

中外務省に於て其此物

大正九年 大政官

大正九年 御出方中入也

大正九年十月十日 編 友

神祇官 武部有

大務有 兵部有

刑部有 中内省

内務省 兼設

大學

第二卷

室石志機

平松文

此の文母抄は、神宮の御書に
道徳の事記す

外務省

文母抄は、神宮の御書に
道徳の事記す

室石志機

博覽會規則

今度初の博覽會を毎年を度々常式
備え事を目論見別展に仕方を設け
務む博覽會掛に頭取并各國政府も
能く在速に條々心附あり

博覽會と云者の大に利益ある事を世の
人知らざる者ある故に又茲に速に條々

しするべし一は是は仕事りと通る各國
政府及我國の人民に於て品物差出方
々々のおきしこと大に入用あり事
あり今餘計に入用を省き不都合
仕事りを取除くんとす紙に通り規則を
定む

博覽會に差出さる物に種々念入に調
上其場と差出さるる一尤不敷多し持

此に及ぶ事

製衣造品之手際、好悪を自利する者を
蓋より付座し、在座者より調へ上り
下り博覧會に持出を許さる事

初度と博覧會を起し、不物を先出する
らば、其三名に限る。別瀬戸物と毛織
物羊毛と糸と織物と製衣とあげざるもの
と學問仕附方と附く物も也

博覧會に持出品と古之色の内、見奉
る色宛差出る。たゞ、念入製衣造
品ともの、新玉と物も也

博覧會の場所、ギヤーン製衣と塵除糸
其を亦入用と雜道具類を用意するに
我政府も辨ゆる筈あり、今度企て博
覧會の入用糸諸不運込と入用と子八百
六十二年 邦文三年 小開きし博覧會入

用之廿五分の一に減少する為に各國政府並其國の不正に箱蓋等を新規に設け入用せざる為あり各國頭取より此を廢し入用を國産たる個を更る時とせよを當國に送込し入用せしめり且他國より尚府に送込せしめり後折るロンドン府中此事を取扱はざる事あり

此會に持出せし不物たる損失を以て

政府より世話人を附置し此事

各國とも纏りしき個に空地を分配せり

新く唯不物と分置る場所ありし事あり

此場所より各國品を自分不物を博覧場より差出せしめり各國品を博覧場より差出せしめりイギリス人同様に便宜を得る

國々之風俗と便利とを考へて國産制衣造り手際と好惡を自利を潤す事と勿論ありし事

望より不物の調は法その外博覧會に撮り合
し諸事之を返を書き我が國博覧會を願ふ
中きつり及支ふ事をも他國に於ても
速に役人を命し今年に博覧會一条あり事
相談を遂げられ出入用と減少する相商
取扱をふさぐ事を望む

別紙規則書

曾多千八百五十一年我嘉永五年小開き博覧會

頭取ハ今度諸職制衣造之品物并學問新

發明之諸品を選分て年々博覧會を開

き之と我目論見あり其第一之會ハロンドン府

サウスケンシントンに於て千八百七十一年六月一日

我嘉永五年三月十二日小開き同九月廿日我嘉永五年七月三日閉づ

此博覧會ハ永世不朽之建物を造營し其

内之傍附場を築くべし只今草木養植社

園之傍に於て建築中あり

各國之制衣造不之珍奇且手際好く之博

覧場より此此之品物の裁判役之證書を

得て後何國を海を越て場中に入るを免

す

第一之博覧會ハ一千八百七十一年の會と云ふ左之品物を

五聚る怪き^て各不部類毎に人附
並又工不物よつて仕方心得る者も附
置る

第一之部

技藝之分

但實用^{なるもの}と^の實用^{なるもの}と

第一各種之画類則水画^{繪具を水に漆} 油画^{油を} 膠
画^{蠟を} 玻璃之画^{硝子を} 陶器之画^木 切嵌細工^{石に類を}
聖^し著^{して}圖画^{を作すもの} 七寶燒類

第二石像及び右髻古之雛形。蠟石。堅石。木。
土燒。金族。象牙。玻璃。寶石。及び他之物技を
以て彫刻あり

第三木版圖。金版圖。石版圖。之類写真画

第四建築方細圖画及び雛形

第五各種織物鋪物縫取之類及織物

第六^一婦女子之飾もの母縁等

但其製造之様相を見よふ所を其着色圖画
品等と稱するあり

第六九ノ飾トモトモ物ノ下画

第七太古或ハ中古時代ノ画。切嵌細工。及び陶器ノ似を作リ。物モ亦鯨腦油を和シタル聖トモトモ美カク不ト似を作リ。トモ又トエシキテルモトモ似を作リ。物

第二ノ部

製法造具_ヲ製物_ト

ホトモ物_ニ製_ス上_ニトモ

第八種ノ焼物 土器 石細工 上品ノ陶器

ハリアンを以テ製ス。多ク器乃ビ善法ニ用由。焼尾モ亦凡ク實用ノ立合キ。珍カク不物ト新工美ク造具_ヲ之_ト製_ス仕方

第九羊毛織物 針規ノ一種ノ物を發明セリ。又ハ亦之_ト製_ス新法_ヲ羊毛織出_ス新工美ク造具

第十學術教導ノつきての事トモトモ其書_ヲ器

一 学校に建物に入用之品若し学校用之器
器物

一 書籍、地圖、若し地球學術上之道具類

一 児童之四徳を運動せしむる爲に遊具持
遊物類

一 技藝、生物學、物理學之教導之仕方著
述之、書畫雛形之類

一 各學校に於て教導を以て仕ふるべき事項

證據なきもの

第三之部 發明之諸品

諸製造産物之商賣之細密なる規則及び
總表を出版せしむ

第四之部 草木養植之術

珍奇なる草木、菓實、野菜、花卉之類格別
之養植法を明し、説き、若し述ぶ博覽會
と同時に博覽場を併へ、之を規則及び

近代之書類ハ追々イギリス政府之草木養
植社中より出版せらる

第一第二第三之部ニテ如ク凡テ物を別表送
る者ハ其系毎ニ一種一個ノ見本を呈出せ
但し各品行ニテ又ハ精巧ト他ノ超由ル
可クナリ

品物附方ハ是迄ノ博覧會ニ付
方を改免國ノ順序を立止品物ノ種類
後ノ區別を定む事

區分あり地味ノ内三分之一を以テ自國
政府より場中加入ノ免許證書を得る者ト
其外餘ノ各國より裁判役を命テ區分
地ノ内二分ハイギリス國ノ產物或ハ右ノイギリ
ス國裁判役ノ免許を得る者ト送來品
物を置テ一旦場中ノ入場券品物ハ沙汰
次第送來場中より引去レ一旦場中ノ

勝附なき一物の博覧會終るまで代折し
運出せしと成許をせし

諸物不の包まざる一々見申振ふ
て相當の古物附添建物之内に送るべし且
運送等諸入費掛らざるべし

地代の取立ざるべし且硝子を張る飾基
及び莖葉系水力拖車を備ふるべし右等
入費の品主の掛らざるべし機械の亦は自國

と者より勝附べし

我頭取の場中諸不を最丁寧な扱と雖
破損紛失未引更ざるべし

不物毎に直戻の附札を附し事不に勝手
あり且都合を考ふる代を命し品物を取扱ひ
し起し品物毎に何處の博覧會場より出せし

又斯くは特上或は格外他品に勝てる
存心を細く認免附札あり置るべし

勝附之地位を正し七人の為之者品之種類不
つき部分あり日を定めて更取振示して常
告せし一に生帝ありていつ日を厳重し
以て誤なき振示振示依り外國品又ハ我國
産之差別あり更其日限之後は持たざるもの
決し一に場中不入るを免さざり

開場後直之各品之評論を細し記し千八百
七十一年二月廿一日 我事未四月
十二日改 迄出版せり

博覧場中之諸品物之功益を記取せり
多見各國より何人を命せりし勝を
あり

褒賞之印を共あり事多し其も博覧
場に入りし事を記する書附を各不
共あり

品物之目録ハ英語より出版あり其も
各國より要用と思はるる自國之語より

翻譯する事勝あり

ロイテナントコロネル

セクレタリー

ヘンリー、ワイ、テイスコット

ロンドン府オップルケンニングトン各ゴール地

一千八百五十一年之博覧會役所より

大印 大印 大印 大印 大印 大印

近更之節 諸官有初任官者
天職同系 知可轉奏任官者
多蒙之各其官者 亦可轉奏

庚午六月

大政宣

外務省

多蒙之各其官者 亦可轉奏

辨官

外務省 辨官

刑部省 辨官

刑部省 辨官

外務省 辨官

刑部省 辨官

皇太后宮職

皇太后宮職

卿

方五

方少保

大補

方五

方少保

方七位

城少使是より河少守は正四條規則

改正多條通河守事長条中

通事

庚午六月

大隻官

右通事

外務省

仰事方官中の也

辨官

法官

長官別毎子母より

うき

○ 城州伏見ヨリ河州守口迄四ヶ驛當七月朔日
ヨリ驛法改正被 仰出候ニ付人足債錢割増
其外共先般相違候驛逸改正表并西規則之通
可相心得事

○ 康千六月

民 部 省

京 都 府

今般城州伏見驛ヨリ河州守口驛迄驛法改正
被 仰出候ニ付當七月朔日ヨリ従前附屬村
村ハ相廢止伏見驛ノ儀人足七拾五人定立申
付候奈正路ニ相勤不足ノ分ハ驛場近傍村々
ニテ當分助郷申付候間平常ニ觸當可申事
驛々問屋飛脚給米被 召上地子ハ従前ノ通
當分被免更ニ米貳拾六石五斗為諸入費給支
候事

一先觸并遠見人足等宿立人足ノ内七人迄ヲ以

〇二

差繰可取計事

人足賃錢割増刎錢其他一切ノ取扱向先般
御布告相成候規則ノ通心得可取計事

康午六月

民 部 省

〇

淀 藩

一前同文言

淀驛

定立人足五拾人申付候

一前同文言

一 米拾八石給支候

一前同文言

一 人足五人迄ヲ以差繰可取計事

一前同文言

○ 康午六月

民部省

一前同文言

高槻藩

○三

牧方驛

一 定立人足貳拾五人申付候

一前同文言

一 米八石八斗給支候

一前同文言

一 人足三人迄ヲ以差繰可取計事

一前同文言

○ 康午六月

民部省

一前同文言

守口驛

定立人足貳拾五人申付候

一前同文言

米八石八斗給支候

一前同文言

人足三人迄ヲ以差繰可取計事

一前同文言

塚
縣

〇四

庚午六月

民
部
省

送通

御

大正
陸軍
陸軍
陸軍

大正

寫濟

諸官省に於て宿直に當る者ハ其ノ職務ニ依
テ或ハ等級ニ依テ其ノ宿直ノ別ニシテ其ノ
下ノ礼ニ認見スルニ達スル有之ル也

三月廿七日

外務省

外務省

神祇

多神

刑部

室内

外務

集議

大學

外務省に於て其ノ職務ニ依テ其ノ宿直ノ別ニシテ其ノ

正札

青島月島市立ニシテ其ノ職務ニ依テ其ノ宿直ノ別ニシテ其ノ

其ノ職務ニ依テ其ノ宿直ノ別ニシテ其ノ

其ノ職務ニ依テ其ノ宿直ノ別ニシテ其ノ

各
行
の
事
を
申
上
す

白

大
王

大
臣

五
指

大
王

大
臣

元
帝
上
并
友
人
下
宗
族
引
渡
東
亞
在

義
之
宗
友
者
移
于
西
徇
其
日
五
指
也

之
事
也

庚
子
六
日

太
政
官

外
務
省

外
務
省
印

外
務
省
印

庚
子
六
日

外
務
省

大補 大正 大正 大正 大正 大正

官者廻

貨物等 厚くはしむるに國家の大禁せしむ
諸君中 之を以て格とす之を以て私事とす
典刑作す情を今日に起り部を恩に担ひ
禁と相と志多き有る趣あやう法に懲と犯

外務省

一 爲すに 之を以て格とす之を以て私事とす
一 厚くはしむるに 刑律と決る中より有る
地方に於て 官署内 爲すに懲と犯
一 爲すに 之を以て刑律と決る中より有る
一 上刑部 有るに可なり
一 仰るに 之を以て

庚午七月

太政官

偽造貨幣

凡貨幣之偽造已行使之銀數ノ多寡

ヲ論セス首タル者ハ梟徒及匠人

贋金銀棉帶及ヒ他具等ヲ製造スル者ヲ云フナリ 若クハ情ヲ知テ買

使ス者ハ并ニ斬 且雇人雜役ニ使ス者ハ

若シ偽造已ニ成リ未タ行使セザル首タル者ハ斬徒タル者及ヒ匠人ハ三等流七年

雇人ハ徒一年半

外務省

若シ偽造未タ成ラザル首タル者ハ三等流徒

タル者及ヒ匠人ハ徒三年雇人ハ徒一年

若シ偽造ヲ悔テ自首スル者已ニ行使スル者

シ減シ行使セザル罪ノ免ス府藩縣通

行ノ貨幣亦同

右之通也 作出向申入似也

庚午七月二日 辨官

辨官

官省往復

大補

大正

大正

大正

四九之日御用飛脚之節官員私
狀多分差出為趣不謂事二付向後
此度被差止於條此旨相違為事

庚午七月

太政官

此通被仰公為向申入也

庚午七月

海官

外務省

官省往復

府藩縣管轄内廻船出入之港別紙雖
形之通巨細取調來ル九月中可差出候事

庚午七月 太政官

某港

但府藩縣共廳ヨリ幾里

一方向

一廣狹

外務省

一深淺

一臺場

一燈明臺

右之通

右之通被 竹公向申入也

庚午七月 太政官

大原
左補
右補
左方
右方
左方
右方
左方
右方

仰

大帳

大正
文書
大正
文書
大正
文書
大正
文書

文書

大正
文書

民部省大蔵省自今分省

之御付條此旨右意之事

庚午七月

大正官

来十四日休暇之事

但十五六兩日之例之通り事務

外務省

庚午七月

大正官

右之通り被仰出之旨申上之也

庚午七月十日

藤田

仰

大將

大將
大將
大將
大將
大將
大將

文書

大將
大將

築地關門田諸官負所用之
節之鑑札一掃之右等後者之
定負直り之取去餘之人不
札之以上通り事

庚午七月

大政官

外務省

取之通り 仰出之官中

庚午七月十日

辨官

外卿
右補

右大臣
左大臣
右少輔
左少輔
右中納言
左中納言
右大進
左大進
右少進
左少進
右大進
左大進

外官有也

一諸官省至外其同省部如相國可總
出奉

但大納言等類之可急事件之
跡之如急事出候者其候奉

外務省

一諸官省等種類之可急事件之
跡之如急事出候者其候奉
可取之可急事出候者其候奉
慶長七年

雜官

神祇官 左省 西院 校書院 府使
此等之官其種類之可急事件之
跡之如急事出候者其候奉

官省往復

御
大輔

檢
少監
推

存

金壹兩五錢拾番文通(一)様並(一)布
告(一)成(一)五(一)錢(一)下(一)成(一)拾(一)番(一)文
初(一)成(一)五(一)錢(一)下(一)成(一)拾(一)番(一)文
三(一)下(一)成(一)拾(一)番(一)文(一)通(一)用(一)之(一)事(一)

外務省

以下可取通(一)用(一)之(一)事(一)

但(一)多(一)借(一)通(一)用(一)之(一)事(一)并(一)其(一)餘(一)之(一)事(一)
按(一)此(一)之(一)事(一)可(一)取(一)通(一)用(一)之(一)事(一)

大
正
十
年

太
政
官

大
正
十
年

御
下
達
之
事

大
正
十
年

大
正
十
年

官本院校書院使

テリテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテ
テテテテテテテテテテ

外務省

7-0063

0227

官省往來

新

大正
陸軍省
陸軍省

大正

自今盛岡藩に廢盛岡縣被置以來

庚午七月

太政官

多田通波

仰々聞申入也

七月十日

辨官

外務省

官省往被

大丞
辨理
春
左補
少輔
左補

官省廻

大蔵省中一宮繕司被置

以事

庚午七月

太政官

右之通被仰出候間申入候也

庚午七月十八日

辨官

外務省

大寺七月十八日
右之通被仰出候間申入候也
辨官

官省往復

類聚
文獻備考

外郎

左輔

右輔

左丞

左輔

右丞

左丞

右丞

廢帝

九修廢帝

大友帝

右

之帝——即謚号神為美乎此其明

外務省

外務省
神祇官

所參典祓為行候事

庚午七月

太政官

官省往復

大友帝
大友帝

南生

大友帝

大友帝

大友帝

大友帝

右

大友帝

外務省

大友帝

大友帝

大友帝

廢帝

九條廢帝

大友帝

右

三帝—所讓號—被為帝—

所拜—被為在候—存—今—亦—言—西—刻—

明—也—云—于—刻—

所神事—候—同—重—輕—昭—若—信—元—事—

外務省

冬

朝—可—降—事—

但—政—存—出—任—之—事—不—為—保—持—事—

庚午七月

冬—政—官—

右—通—使—

仰—出—其—内—申—之—事—也—

十—一—日—

辨—官—

神祇官

予四半官四年

民戸有

刑了者四年

去死有

三年

兵了有

十子半官四年

刑了有

予四半官四年

官中者

予四半官四年

外務有

予六半官四年

待給院

予四半官四年

外務省

集属有

予六半官四年

才學

予六半官四年

簿与有

予六半官四年

皇位官有

予六半官四年

公海官有

予六半官四年

樺太官有

予六半官四年

告九甲

官中者

官省往後

大友
大友
大友

大友

大友帝

弘文天皇

廢帝

淳仁天皇

九條廢帝

仲恭天皇

外務省

右通

三帝市謚以為奉候條此旨相違多

庚午七月

太政官

右通被

行出少間申入於也

庚午

七月廿四日

辨官

廿五日彈正左衛門尉末待伯耆守勝通

官省往來

大補

官省より民部省へあり民部省へ
順達候

大正
少佐
大佐

大佐

諸官省有縣刺任之案代之官省
ヨリ轉任中付及之官省有之
補差免の上之官省ニテ新任可
中付事

康平

七日廿五

辨官

外務省

外務省

中

御下問相成件ノ旨御沙汰成候事
御下問相成件ノ旨御沙汰成候事

御
下輔
松方 王
松方 王
松方 王
松方 王
松方 王
松方 王

過日藩制之儀存

御下問相成件ノ旨御沙汰成候事

返

御下問相成件ノ旨御沙汰成候事
今以是出旨早ニ御沙汰成候事

外務省

御下問相成件ノ旨御沙汰成候事

新官

右名義

御

輔

松方 正

松方 正

松方 正

松方 正

松方 正

過日藩制之儀存

御下問相成件、常期日迄見

三書論の恩平と急なる也
と申す

佐成の愛
弟の如く

外務省

馬之修也

新官

右右左

	小藩	中藩	大藩	
			知事	從三位
		知事		正四位
	知事			從四位
			大参事	正五位

7-0063

0238

		大参事	権大参事	後五位
	大参事	権大参事	小参事	正六位
		小参事	権小参事	後六位
	小参事	権小参事		正七位
	大属	大属	大属	後七位
	権大属	権大属	権大属	正八位
	少属	少属	少属	後八位
	権少属	権少属	権少属	正九位
	史生	史生	史生	後九位
				大初位
				少初位

7-0063

0239

乃 田 方 志 田 志
 森 田 補 田 補
 中 田 生 田 生

一藩分爲三現米十五萬石以上ヲ大トシ
 五萬石以上ヲ中トシ以下ヲ小トスル事
 一石高實數ヲ以テ稱スヘキ事

外務省

フヘキ事

一藩廳

知事

大参事

不過二人

權大参事

有無ヲ便宜ニ從フ小藩ハ之ヲ置カス

少参事

不過五人

権少参事

有年便宜之徒ノ小藩ハ之ヲ置カス

以上掌ノ見職員令

大属

権大属

少属

権少属

外務省

史生

以上分課専務ノ所ハ之假令ハ民政會
計軍事刑法学校掛ノ類ヲ如シ

右大中小藩ニ從テ官員多寡アルヘシ先藩
ノ適宜ニ任ル事

藩掌

使部

一藩高

磨ハ

現米十萬石

内十分一

壹萬石 知事家祿

残

九萬石

内五分一

壹萬八千石 海陸軍費

外務省

残

七萬二千石

公解諸費士族卒家祿

一官祿藩々ノ適宜ニ任スヘキ事

一功有テ祿ヲ増シ罪有テ死ニ處スヘキ事ハ

朝裁ヲ請フヘシ一時ノ賞並ニ流罪ノ刑ハ

収録シ毎年五月可差出奉

一士卒二等ノ外別ニ級凡可ラサル事

一 正権大参事ノ中一人在京集議院開院ノ節即チ議員タリ交代ハ藩ノ便宜ニ因ルヘキ事

但シ識人名目廢止ノ事

一 公用人ノ稱呼ヲ廢シ其ノ事務ノ大小ヨリ或ハ多ク或ハ大属等ニテ用辨ラ為サシムル事

一 知事朝集三年一度年々四季ニ分チ滯京

外務省

三月月ヲ期トス國家重大ノ事件ガ因リ朝集ハ此限ニ非ス

一 歳入歳出明細書ヲ以テ翌年五月限可差出事

一 従前藩債ハ一藩ノ石高ニ関スル事ニ付十分ノ一ハ家禄ヲ以テ償ヒテ餘公廩ヨリ出スヘキ事

一 従来私造ノ紙幣往歲年以テ引替濟

目的ヲ定メ一年毎ニ引替高明細書可差
出奉

一家人職員

家令 一員

家扶 人員便宜ニ任ス

家從 同

家丁 同

外務省

藩制御改草ニ付官負ノ定限并ニ知藩事家録等之儀実
事上ニ取り不都合有之假令ハ鹿兒島藩ニオケ即藩隅^薩
日三々國ヲ管轄シ其管内凡百二十四ヶ郷アリ凡一人ヲ以
テ三ヶ郷ヲ引受差配スルトモ其管負四十余人ハナク
テ不叶ナリ終ニ新定ノ官負ノミニテハ邊隅ニ至ルニテ

外務省

政治ノ行届ノ様ニハ甚タテキ難キコトナリ何ト下
レハ藩人ノ氣質ト云モノハ一種ノ異ナルトコロモ是アリ
尋常ニ様ノコトニハマイリ並致シ故ニ判任以下
ノ者イカ程ノ数アリトモ府縣ノ政ト同シラスル下至テ

難事ナリ

今封建ノ制ハ改ノラレテ如サタルガ如シト虽モ実事
ハ封郡混淆ノ恣ナルガ故ニ封カ郡カイツレカ一途
ニ歸^レ其基奉^レ種々ノ不都合アリテ終ニ政治実効モ岸

姿

ラサレナリ

石高実数ヲ以テ祐スヘキ事トアルニ就テ考フルニ度
量衡ノ御正アリテ一般所布告ナケレハ藩々ニテ
共制一様ナラザルモ有之^ト存^ル故ニ速急此三制
所確定アリタマモノナリ

藩高ハ今公然我万石ト云定數分明ナカ^シト
口実モ鹿兒島藩管領^ニテハ萬石頃檢地アリ^シ以
下今二百余年ノ之餘^地田ノ境界相亂セタル者^モ多^シ

外務省

亦高田帳ニハ上田何町ト現在^存セシモ今ハ現実ニノラナル
所モアリ亦新^兵組等ノ田ニ毎年^二貝^三テ數十年
耒耕ニ来リ今ニ至^ル迄公檢シ^レ磨^ルサ^ルモアリ極メテ
不都合ナリ連ニ是等モ而正シ^テナケ^レハ収租ノ間ニ
女^計ノ患アリ隨テ農民ヲ^困ノル^患益^々深入ス^ル
知事ノ家禄ハ藩高ノ十分一ヲ以テ定^ラレ^ル、時ハ若^ク
知事職ヲ辭シテ華族トナルハ、矢^長十分壹ノ家禄有
ス^ル後ナリ又其次ニ其藩ノ知事^ノ職ヲ奉ス^ル者ハ

跡リ九分内ヨリ十分一ツ家禄宛次第ノニ十分ス
ル時ハ後年ニ至リ終ニ一カニ万石ノ高ヲ以テ元十
万石ア美藩ノ用并セ子ハ十ヲ又様ニナリ行ク理ナリ
故ニ~~國~~従前藩主タリシ者ハ一般ニ華族ノ各
義ニ改リ家禄ヲ定メテ職禄ノ別ニ定ムル方
高当ナラニ歟

外務省

少々... 南... 柳...

柳

大五火

大五

痛

水

水

往

中秋祭自今男山祭ト改稱

被

仰出候奉

辛卯月

太政官

外務省

右ノ通云

仰出候奉

辛卯月

柳

右ノ通云

柳

仰出候奉

可相心得此言者達候事

庚午八月

大政官

七補

以總司權司

左少将

今般兵學子登教官左之通御

定右成候事此言者達候事

大教授

相常 從五位

少教授

日 正六位

外務省

大助教

日 從六位

中助教

日 正七位

少助教

日 從七位

大得業生

日 正八位

中得業生

日 從八位

少得業生

日 正九位

准得業生

日 從九位

庚午八月

初 大正 拾五 拾五 拾五 拾五

孝二十五日男山祭 廿一

三日晚五十六日朝

御神事候間僧尼重輕

服者參

内可憐一事

但政府出仕之輩不及憐一

外務省

事

庚午八月

太政官

者之通種

仰出有申入也

月台

辨官

輔

大丞
指事

少丞
指事

大丞

別當之通行使使向申入也

辨官

辨官

官有也

徳島縣新大元多古多序多老河通事

外務省

位威建自本一御分口新河通事二也

品一甲大也。一也。一也。一也。一也。一也。

書

府藩縣へ御布告
今般民部大藏令省ニ付兩省管轄之寮司共諸
掛等左之通區別相立候條向後兩省へ可差出
諸願伺届類其外共別紙兩省事務條件ニ照準
致シ可差出事

但是迄何月限又ハ年々可差出旨ヲ以テ達
置候諸帳面類其外諸調物類等モ同様別紙
條件ニ照準シ可差出事

庚午八月

太政官

民部省

地理司

土木司

驛遞司

鑛山司
廢務司
聽訟掛
社寺掛
鍊道掛
傳信掛
燈明臺掛
横須賀製鍊所掛

〇二

大藏省
造幣寮
租稅司
出納司
用度司
營繕司
監督司
度量衡改正掛
通商司 當今管轄

7-0063

0254

民部省事務條件
全國ノ經緯山川江湖海岸島嶼ノ位置ヲ詳
明ニスル事
府藩縣管轄地ノ經界州郡村市制置ノ事
戸籍人員ノ事
地方石高ノ事
社寺ノ事

物産ノ事
工藝ノ事
驛遞ノ事
道路橋梁ノ事
諸港津ノ事
燈明臺及船路標ノ事
水利堤防ノ事
開墾ノ事
種藝牧畜ノ事

<p>租税備ノ事 一切貨幣ノ事 度量衡ノ事 蓄積ノ事 通商ノ事 廻漕ノ事 献納品ヲ領取スル事 諸營繕ノ事 一切倉庫ノ事</p>	<p>諸鑛礦ノ事 聴訟ノ事 府藩縣中小學ノ事 濟貧恤窮ノ事 山林原野ノ事 大藏省事務條件 歳入歳費ノ事 一切用度ノ事</p>
---	---

金穀ニテ附與スル賞典ノ事
諸官祿秩祿支給スル事
諸費用ヲ供給スル事
國債ノ事

濟貧恤窮ノ費用ヲ給シ及金穀ヲ貸附ル事

販賣鴉片烟律

一凡ソ鴉片烟ヲ販賣シテ利ヲ謀ル者首ハ斬
從ハ三等流自首スル者ハ一等ヲ減ス
一人ヲ引誘シ吸食セシムル者ハ絞從及ヒ情
ヲ知リ房屋ヲ給スル者ハ三等流引誘セラ
レテ吸食スル者ハ徒一年
一收買シテ未タ售賣セザル者首ハ三等流從
ハ徒三年買食スル者徒二年半自首スル者
ハ并ニ罪ヲ免シ鴉片烟ハ官ニ沒收ス

一官吏知テ舉セザル者ハ英ニ与同罪時ヲ受
ル者ハ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス
右之通御定ニ相成候條此旨相達候事

庚午八月

太政官

府藩縣へ御布告

鴉片煙艸ノ儀ハ兼テ嚴禁ノ處猶又今般販賣
鴉片煙律御定ニ相成各港在苗ノ支那人へモ
嚴重禁止被 仰出候且藥用ニ供シ候生鴉片

タリ氏勝手ニ取扱候儀不相成別紙之通取扱
規則ヲモ被為立候條各地方官ニ於テモ管内
人民未々迄心得違無之様此度取締可致事

庚午八月

太政官

生鴉片取扱規則

一藥店中現在所持ノ令ハ各地方官廳ニテ檢
査ヲ遂ケ品位量目等委細簿記シ可置事
一不得已藥用ニ供シ候儀有之賣買致シ候節

ハ其度毎ニ藥店醫師ヨリモ品位量目等委
細官廳へ可届出事

一藥用闕乏ニ付外國ヨリ取寄度節ハ各地方
官ヨリ開港場へ申立候ハ、別段ノ注文ヲ
以テ取寄候様可致事

外務省へ 御沙汰書寫

外務省

鴉片煙艸ノ儀ハ兼テ嚴禁ニ候處猶又今般販

〇七

賣鴉片煙律御定ニ相成候ニ付テハ各港在留
支那人へモ嚴重禁止ノ儀申諭シ竊ニ取扱候
儀無之様急度取締可致事

庚午八月

太政官

府藩縣へ御布告

寺院住職繼目等之儀ニ付別紙之通本寺本山御沙汰ニ相成候條其旨相心得管内寺院へ可相達事

庚午八月

太政官

諸寺院へ御布告

寺院住職繼目等從來本寺本山ニ於テ取扱來候處自今管轄地方官へ一應摺合之上可取計

事

但住僧不行跡不正之儀等有之候節ハ地方官ヨリ可及摺合候條其本寺本山ヨリ入撰進退可取計事

庚午八月

太政官

官省法被

口
大務

抄
抄
抄

大務

官省通一彈正臺々來待詔地官通達

各港立留一支配人左籍童男女ヲ買

取海外一可連越奸計お今年者多ク

既捕押お年毎追号嚴書し申所

具の多クは月々素外人は即國民

養育儀を第一即國體維持官痛

外務省

事一に測り海地方官に推し管地此後

必掃お立教育行儀所厚志を以

可申以爲お達し了

庚午八月

太政官

多し通致

仰出の箇中入りし也

八月十日

辨官

官省往後

嘉

西

河

官省出... 大... 外...

明十六日... 大... 門中...

管... 始... 付...

位馬車... 止...

唐

初官

各官省免

外務省

吉輔

大臣

少輔

大納言

少納言

左

神宮例幣 九月廿九日晚ヨリ

御神事 九月九日晚ヨリ十二日朝マシ

御潔齋 存右

御神事 中重輕股者僧尼參

朝の禪事

但

外務省

御潔齋止 政府出仕之輩服者不及

禪事

庚午

八月

太政官

右之通被

仰出候間中入候也

八月廿三日

辨友

各友者宛

字漏生佛蘭西兩國交戦ニ及候處於皇國ハ
局外中立ニ付開港場共ニ海岸諸要區心得之
條々先般御布告相成候處更ニ左之通御改定
相成候事

①一

一 港内及ニ内海ハ勿論ニ候ヘ尺外海之儀ハ

凡三里陸地ヨリ砲丸ノ以内兩國交戦ニ及

候儀ハ不相成尤軍艦商船共通行ハ是迄通
リ差許候事

一 薪水食料等ニ欠乏シ或ハ艱難ニ出逢ヒ開

港場ハ勿論不開港場へ來候右兩國之軍艦

商船トモ兼テ御布令之趣ニ基キ通例之手

続ヲ以テ偏頗ナク給與可致候事

一 双方ノ軍艦港内へ進口致シ一方之船出帆

後廿四字内ハ其一方ノ船出帆不相成候事
 一 関港場内ニ兵士ヲ置軍艦帶泊其外海軍屯
 所差許置候國モ有之候ヘ共右ハ全ク平時
 港内在留之其自國商民保護之為ニテ他國
 來戰ノ為差許置候儀ニハ無之候ニ付右屯
 所平日ノ用事ノ外總テ右場所ヲ以其敵國
 ヲ伐之利ニ資ケ候儀ハ不相成候事
 一 御國船艦ニテ交戦ニ及候方ヘ兵士武器其
 外直ニ戰爭ニ供シ候品物運輸イタシ候儀

〇二

不相成候事

一 交戦國ノ船艦ヘ水先案内ノ外被雇乗組出
 先ニテ兵難ニ遇ヒ及訴訟候儀不相成候事
 一 戦地ニテ分捕イタシ候品物ヲ港内ニ於テ
 賣買イタシ候儀不相成候尤賣買不致候ヲ
 ハ不相成場合モ有之節ハ其旨可同出候然
 以上分捕致シ候國ノ公使ヘ談判御處分可
 有之候事
 一 其外輸出入品ニ就テハ條約面ニ禁制セ

口品ノ外ハ平日ノ通心得可申候事

一右規則中外國人ニ相拍候件々違背及ヒ候

様子相見候節ハ開港場ハ其國々コンシユ

ルハ域台差止可申若シ不服ノ節ハ其港軍

艦ニ相達ニ兵部ノ處置可有之候事

但不開港場其外海岸ニテ右様ノ儀育之

候ニ於地方官迄傍開港地ノ廳共滯泊之

御軍艦ハ可相達懸隔之場所ハ其顛末速

ニ兵部省并外務省ハ可届出候事

三

右條々開港場并藩縣諸要區屹度可相心得候事

庚午八月

太政官

外務省
 庶務課
 庶務課
 庶務課
 庶務課

<p> 外務省 庶務課 庶務課 庶務課 </p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>外務省</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>	<p>庶務課</p>
---	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------

右
右
右
右
右
右
右

万外中... 希... 成...

交... 有...

十...

但長官... 治官系 朝...

外務省

至主... 政府... 事...

原... 治官

多... 治官

カ... 治官

各...